

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市愛子児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 27,097人(前年度比 115.8%) 令和4年度 23,400人 令和3年度 18,917人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 66,442千円 (63,406千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、様々な地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流が図られている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「様々な遊びや人との関わりを通して子どもの健全育成を図る」を重点目標にして児童館運営に取り組んできました。まず子育て家庭支援事業としては、乳幼児親子の交流を通して子育て家庭を支援することをねらいとして乳幼児親子を対象にした「ほっとタイム」を毎週、申込制の「赤ちゃんルーム・たっぴい0ちゃんタイム」を月2回、1～3歳児親子を対象にした申込制の「たっぴいタイム1・2・3」、登録制の幼児クラブも月2回実施しました。参加者からは年齢に合わせた工作や運動遊び、クリスマスや節分など季節の行事が好評で遠方から参加される方もいました。また参加者の交流促進を目的に「ママカフェ」を3回開催しました。お茶を飲みながら同じ子育ての悩みや情報交換をすることで保護者間の横のつながりができ、子育てでの孤立感の解消にも大きく寄与することができました。児童健全育成事業としては、様々な遊びを通し異年齢の交流を図り、子どもたちの自主性や社会性を育むことを目的に行事を開催しました。こまやけん玉などの遊びでは、講師の技を見て刺激を受け、挑戦意欲を高めました。また年に5回実施した「わくわくひろば」は、季節や伝統行事を味わう行事として人気があり、製作した作品が館内に展示されると互いに鑑賞し合い、子どもたちが達成感を味わう機会として有効でした。放課後児童健全育成事業については、学年毎に居室を設定し安心・安全な居場所づくりに努めました。自由遊びの時間では、子どもの主体性や自己決定力を尊重し、可能な範囲で異学年交流を図り遊ぶよう設定しました。地域交流推進事業については、宮城地区まつり出店を通し、児童館事業を地域に紹介しました。また「わくわく探検隊」での自然観察会やザリガニ釣りなど地域資源を活用した行事や市民センターと連携した「広瀬子ども体験講座」などを行うことで、地域諸団体との連携、子育て環境づくりを推進することができました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、講師を招いて開催される「こまで遊ぼう」「けん玉で遊ぼう」が恒例行事として定着しており、子ども達の技習得の意欲を引き出すとともに異年齢の関わりを通して、できた自信や自己肯定感を育んでいる。また「わくわくひろば」は、職員の特技を活かして体験活動や季節の工作等、家庭では出来ない経験ができる場を提供し、子どもの自主性や興味関心を広げる内容となっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の幼児クラブの他、0歳児対象の「赤ちゃんルーム」や1歳児から3歳児対象の「ジャンプタイム」等の乳幼児行事が行われ、ふれあい遊びや季節の行事、工作等を通して参加者のリフレッシュと交流の場となっており、来館者促進に繋がっている。また、乳幼児親子対象の「おでかけ児童館」と近隣3か所の保育施設の年長児対象の「児童館にございん」は、保育施設と連携して地域で子どもを見守り、継続的な支援に向けた取組みとなっている。</p> <p>地域交流推進事業においては、地域の人材や資源を活用し自然体験や社会体験を通して地域を知る機会となっている「わくわく探検隊」や近隣の中学生によるミニ演奏会、広瀬市民センター主催の人形劇の鑑賞等、地域の様々な世代の方々との交流を図る場を提供し、子どもの育ちを支えている。また「よさこいおどり隊」は、高学年を中心に日々練習を重ね、児童館まつりや社会福祉センターでの発表を経験し、達成感や自己肯定感を得る活動となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、子どもの話を丁寧に聞き、子どもの思いや気持ちを大事に日々関わる事で子ども達の気持ちの安定が図られている。本館とサテライトの児童が校庭で運動遊びを通して日常的に交流し、異年齢の交流を通して心身の健康促進が図られるとともに、受け入れ前のミーティングによる見守り場所等の配置を徹底して事故防止に努めている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課